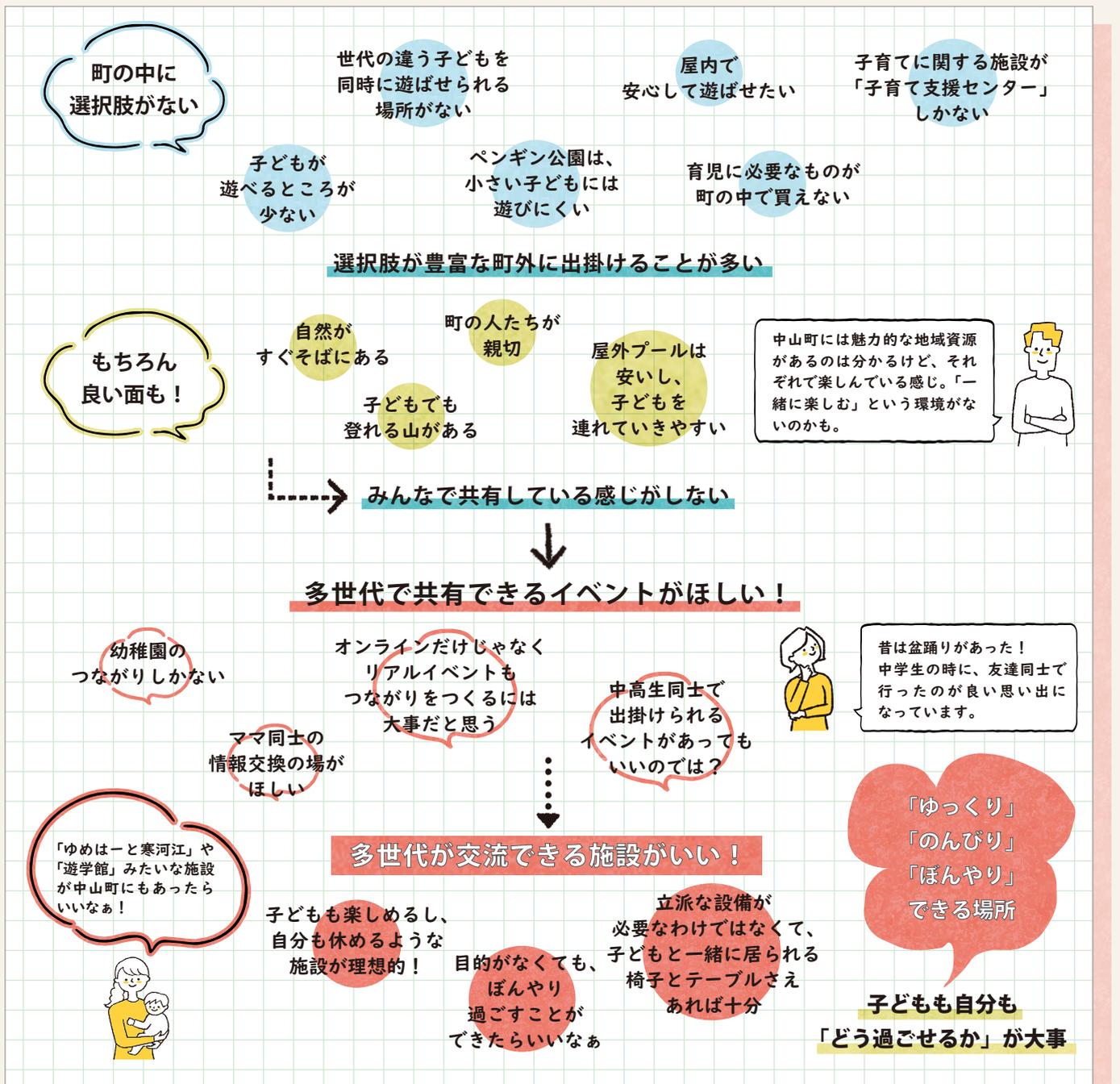


皆さんの「声」を聞かせてください！

ながさき幼稚園の保護者の話

今回は、ながさき幼稚園の保護者の方々にお話を伺いました。未就学児のお子さんを持つ方々へのグループインタビューは今回が3度目でしたが、新たな気づきや課題発見につながるご意見をたくさんいただくことができました。中山町で生まれ育った方からすると、どんどん「出来事が共有できなくなっている」ことが気になっているようです。



1 町の中に選択肢がない

町内には「子どもが遊べるところが少ない」とのことで、「結局、町の外に出てしまう」という親御さんがほとんどでした。印象的だったのは、「ペンギン公園は、小学生以上である程度自分でいろいろできるようになれば遊ばされるけれど、未就学児にとっては、遊具も大きくて危ない」というように、年齢や体の大きさによって子どもの遊び方にはグラデーションがあるた

め、「〈子ども向け〉と一括りに考えるのは危ない」ということです。このグラデーションにどう対応していくか、再配置の際にも検討が必要な点です。

また、「育児に必要なものが町内で買えない」という、「当たり前のことできない」ということもストレスになっているようでした。遊び場も買い物も、町内における選択肢が極めて少ないことが子育て世帯にとっては不満のようです。

2 共有できる出来事がない

もちろん、「ほんわ館」や「せせらぎ公園」等の具体的な名称とともに、中山町の良いところもたくさん挙がりました。しかし、一方で気になったのは、「町の資源を、それぞれが楽しんでいる」という状態で、「みんなで共有していない」ということです。意見としても「多世代で共有できるイベントが欲しい」という声があがり、「昔は盆踊りがあって、親と一緒に出掛けたり、

中学生になってからは友達と行ったりして、思い出に残っている」「今は、そういうイベントがないので寂しい」とのことでした。他にも「同世代とは、幼稚園でのつながりしかない」「親同士の情報交換の場がもっと欲しい」という声上がり、リアルな場でのコミュニケーションの機会が求められているようでした。

3 つくるなら「多世代で利用できる施設」を

「こんな施設がいい!」と具体的に名前が挙がったのは、乳幼児から児童まで利用できて、遊んでいる様子をゆっくり眺めることができる「ゆめは一と寒河江」(寒河江市)と、図書館もカフェもホールも併設されている「遊学館」(山形市)です。いずれも、「子どもも楽しめるし、自分も休める」「目的がなくても、ぼんやり過ごすことができる」として、「今の中山町にはない施設」とのことでした。また、子どもだけでなく、

大人の目もあるということで、「多世代が子どもの近くで過ごせるようになるといい」という意見も出ました。

また、「子どもと一緒に居られる椅子とテーブルさえあればいい」という意見もあり、「いつでも、誰でも」立ち寄れて、「ゆっくり」「のんびり」「ぼんやり」できる場所、つまり特定の機能を持たない、余白のような場が求められていると感じました。

公共施設再配置計画については、その必要性が「第6次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下 URL または、右記コードよりご確認ください。

©中山町「第6次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総務広報課防災安全対策室(中山町大字長崎120番地/電話:023-662-4899)

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

(2025年3月発行)